

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2020年10月号 vol.113

文責：渡辺順子 編集：石川真里

チームメンバーよりひとこと



◆がん化学療法看護認定看護師 渡辺順子◆

はじめまして。がん化学療法看護認定看護師の渡辺順子です。

病棟勤務を経験した後、約10年の外来化学療法センター勤務を経て、2年前に認定看護師になりました。

子供も大きくなり、認定看護師になってからは病棟に配属され、慣れないロング日勤や夜勤を経験しました。10年ぶりの病棟勤務で肉体の衰えを実感しましたが、若いスタッフとの交流を深めることもでき、大変刺激的な日々を過ごすことができました。

今年の3月からは古巣（外来化学療法センター）に戻り、病棟で得た知識を外来のスタッフに還元できるよう自分なりに頑張っている日々です。

病棟で築いた人とのつながり（人の輪・結びつき）は私にとっての財産です。患者さんが安心して治療が行えるよう病棟と外来との繋がりを今後更に強化していきたいと思い、化学療法センターのスタッフと協力し、積極的に退院前カンファレンスにも参加をしています。

春から緩和ケアチームのメンバーとしてカンファレンスや病棟ラウンドに参加させて頂くこともあります。積極的ながん治療（抗がん剤など）と緩和ケアというのは相反するものだと考える患者さんもまだ多くみえますが、がんに伴う身体的・精神的な苦痛を可能な限り軽減し、万全な状態で治療に臨んで頂くことが大切です。「がん」と診断された時から緩和ケアは始まっているのですよ・・・と伝えると驚く方も多いですが、患者さんの一番近くにいる看護師だからこそ、患者さんや家族の発するSOSにいち早く気づき、医師や薬剤師、臨床心理士や栄養士、医療ソーシャルワーカーやリハビリ担当者など他職種と協力しケアにあたっていきたいと思えます。

まだまだ不慣れで頼りない私ですが、今後も更に人の輪を広げ、皆さんと一緒に成長していきたいと思っていますので今後ともよろしく願いいたします。



令和2年度の緩和ケア勉強会について

令和2年度の緩和ケア勉強会は、当院の会議等開催制限が解除されてから再開する予定です。

申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちください。